

京都マラソン 2020大会の総括について(報告)

【 2020大会の総括 】

1 開催結果の概要

1 開催結果の概要		前回 (2019)
日 時	令和2年2月16日(日) ※2月第3日曜日 8:55 車いす競技 スタート 9:00 マラソン・ペア駅伝 スタート 15:00 マラソン・ペア駅伝 終了	※同左 (2月17日(日))
天 気	9時(スタート会場) 雨, 12.6℃, 湿度 80% 15時(フィニッシュ会場) 雨, 13.3℃, 湿度 100%	晴れ, 10.6℃, 49% 晴れ, 11.3℃, 50%
出走者	マラソン 14,802人 ペア駅伝 402人 車いす競技 7人 } 計 15,211人 (完走者 14,283人, 完走率 93.9%)	16,723人 (15,812人 94.6%)
競技コース	1 マラソン・ペア駅伝 たけびしスタジアム京都(西京極総合運動公園内)～ 平安神宮前(42.195km) (日本陸上競技連盟, 世界陸上競技連盟及び国際マラソン・ ロードレース協会公認) 2 車いす競技 たけびしスタジアム京都(西京極総合運動公園内)～ 嵐山(6.1km)	同左
スタッフ数	約 14,200人	約 14,500人
応援人数	約 427,000人	約 530,000人
おこしやす広場 入場者数	約 24,200人	約 26,400人

2 各取組の概要及び実施結果 (●は新規, ○は拡充)

(1) 競技運営

・より安心・安全かつ円滑な競技運営に向けて, 各種対策を充実強化。

取組	概要・実施結果
ア 走路対策	・積雪・凍結時に備え, 除雪車等を確保
イ ランナー対策	・給水所で「京の水道 疏水物語」を使用 雨天・防寒対策として, 簡易ポンチョを配布 ・ランナーの防寒衣類をスタート後に回収, リユース・リサイクル →810kg 回収(前回 1,760kg)
ウ 医療救護対策	・京都府医師会等, 医療関係者の協力のもと, 救護所・救護車, コース 沿道の救護サポーターなどの体制を構築(AED135台を配備) ・コース沿道でのAED 配備施設に協力を依頼

	<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生時の対応を学ぶ「ファーストエイド講習」を実施 (3回 定員 150人) →119人参加 (前回 141人) ・救命講習を受けたランナー・ボランティアを対象にファーストエイドサポーターを募集→158人登録 (前回 177人) ・緊急時の救護応急拠点となる「高度救急救護車」を配備 <p>○各救護所に多言語指差しボード (ランナーが各症状を指差す) を追加する等, 多言語対応を充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救護 284件 (前回 347件), 救急搬送 8件 (前回 2件) ※AED 不使用
エ 警備対策	<ul style="list-style-type: none"> ・京都府警察と連携した会場等巡回, 応援者手荷物検査等を実施 ・テロ対策を想定した関係機関 (警察・消防等) との合同訓練を実施 (令和元年 11月 19日)
オ ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの人材育成と裾野を広げるため, 個人ボランティアリーダーを配置 →38人参加 (前回 37人) <p>○スポーツへの関心を育み, 支え合う精神を養うことを目的に, 「ファミリーボランティア」を募集 (小学校 5年生~中学生 1~2人につき 20歳以上の大人 1人の組合せ, 合計 60名) し, スタート会場, 給水所に配置 →50人参加 (前回 44人)</p>

(2) 交通総量抑制対策等

大会当日を「ノーマイカーデー」に設定し, 様々な媒体を通して市民や事業者, 観光客等への広報・周知を行い, 緊急自動車・公共交通機関の円滑な運行の確保に努めた。その結果, 大会に起因する大規模な交通渋滞は発生しなかった。

取組	概要・実施結果
ア 交通総量抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> ・市民しんぶん・チラシ・ポスター・啓発グッズ・歩道橋横断幕, 市バス・地下鉄広告など多様な媒体を活用した周知 →市民・事業者・観光客等の御協力の結果, 大会に起因する大規模な交通渋滞は発生せず ・広域迂回・直近誘導対策等を実施 ・ホームページ上で時間帯別の交通規制内容をコース図に表示 ●「水道使用量のお知らせ」票に裏面広告を掲載 →市内約 50 万戸に各戸配布 ●バス停の大型広告を掲出 →56 箇所に掲出
イ 公共交通対策	<ul style="list-style-type: none"> ・市バス無料乗車券の配布, 路線バス利用促進を広報 →11,610 枚の利用 (前回 14,072 枚) ・閉塞地において無料シャトルタクシーを運行 →8 路線で実施, 989 人が利用 (前回 1,198 人)
ウ 緊急車両対策	<ul style="list-style-type: none"> ・京都府警察・消防局等と連携したランナーストップ体制を配備 →傷病走者搬送のためランナーストップを 2 回実施 (搬送後速やかにレース再開) ・消防指令センターと京都府警察本部の専用回線の設置及び人員配置等により, 緊急車両通行時の連絡体制を確立

(3) 沿道住民合意形成

コース沿道等の住民・事業者に対し、チラシ等を各戸配布し、きめ細やかに情報提供を行うとともに、「固定式島方式」の設置等によるコース横断対策や速やかな交通規制解除のための時間制限関門を設置した。

取組	概要・実施結果
ア 説明・周知	<ul style="list-style-type: none"> 沿道住民・事業者（128,000世帯）へ交通規制マップ等を配布 市民しんぶんへの挟み込みや各施設等へチラシを配布
イ 通行・コース横断	<ul style="list-style-type: none"> ランナーの走行を妨げずに歩行者を横断させる「横断対策島方式」を設置（13箇所） →12,038人が横断（前回比約34.6%減） ランナーの切れ目での横断誘導を実施
ウ 交通規制開始・解除	<ul style="list-style-type: none"> 速やかな交通規制解除のための時間制限関門を設置（8箇所） 大会ホームページを通じ規制解除情報を逐次発表 関門閉鎖後の走路上のランナー等を速やかに歩道へ誘導するため、競技役員による指導の強化及び多言語対応のプラカード等を配備

(4) メインコンセプトの具現化、ランナーサービスなど

大会のメインコンセプトの具現化に努めた。また、地域各団体・市民の御協力の下、京都ならではの温かいおもてなしや応援等により、大会を盛り上げた。

取組	概要・実施結果
ア メインコンセプトの具現化	
(7) 「DO YOU KYOTO?マラソン」	<ul style="list-style-type: none"> 大会当日を「ノーマイカーデー」に設定 燃料電池自動車大会車両の一部に導入 リユースゴミ箱（450個）の活用 給水・給食の未使用品をフードバンクへ提供 使用済小型家電から抽出した金を使用したリサイクル金メダルを優勝者に贈呈 ボランティア・スタッフウェアを回収し、クリーニングのうえ、次回大会で再利用 →5,676着回収（前回5,765着） 看板等使用資材の再利用 給水の紙コップ削減を目的にオリジナルマイカップを導入 →3,338個販売（前回3,348個） 京都市「DO YOU KYOTO?」大使に任命 ●使い捨てプラスチックの発生抑制に向け、おつかれさま広場で配布するみそ汁をリユース食器で提供
(4) 東日本大震災復興支援	<ul style="list-style-type: none"> 「復興支援枠」の設定、復興支援メッセージをランナーゼッケンに印字、物産・飲食屋台販売等 東日本大震災被災地への義援金を募集 →6,971,789円（前回7,684,166円） 東北開催4大会※からの受入と同大会への派遣 ※仙台国際ハーフ、会津若松市鶴ヶ城ハーフ、一関国際ハーフ 東北・みやぎ復興マラソン(2020大会はいずれも中止)と連携

	<ul style="list-style-type: none"> ・京都産業大学学生による「古本募金」を実施 →14,429 円を上記義援金に充当
イ ランナーサービス	
(7) エントリー・ランナー受付	<ul style="list-style-type: none"> ・各募集枠の設定（ボランティア経験者枠，連続落選者枠，京都市民枠，サブ3.5・サブ4応援枠，東日本大震災復興支援枠，ふるさと納税枠） ●学生等若年層のランナー人口の拡大を目的に，大会当日23歳以下のマラソン参加者の参加料を割引する「U-23」応援割を実施 →23歳以下は1,356人
(イ) 多言語対応	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な案内看板を日本語・英語・繁体字・簡体字で表記 ・たけびしスタジアム京都のフルカラーLEDスコアボードを活用した多言語案内及び手話通訳
(ウ) スタート前	<ul style="list-style-type: none"> ・市バス（京都駅→スタート会場）35台運行
(エ) フィニッシュ後	<ul style="list-style-type: none"> ・フィニッシュ会場で足湯・マッサージ・みそ汁を提供 ・完走証を当日交付 ・ランナー参加案内で銭湯を紹介 ・「アミノバリュー」（スポーツドリンク），「京の水道疏水物語」，「京都米おにぎり」を全ランナーに提供 ・シャトルバス（フィニッシュ会場→烏丸御池駅）33台運行
(オ) 京都ならではの おもてなし	<ul style="list-style-type: none"> ・上位入賞者（1位～3位）のメダルリボンに京くみひも（一般男子・車いす），京友禅（一般女子）を使用 ●完走メダルのリボンを京友禅柄で作成 ・ペア駅伝のタスキ，フィニッシュテープを西陣織で製作 ・コース周辺の観光名所案内サインを設置 ・生八ツ橋を給食で提供 ●新たな京銘菓の提供 （給食：「姫千寿せんべい（有機抹茶）」，フィニッシュ後：「茶の菓」） ○京都マラソンオリジナルの「抹茶パン」を給食で提供 ・フィニッシュ後に舞妓さんと写真撮影（有料）
(カ) 表彰	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ランナー賞「京（みやこ）トップ8（エイト）」を設定 ・特別記録証の発行などランナーサービスを提供する「マラソンチャレンジカップ」に参加
(キ) コース	<ul style="list-style-type: none"> ・給水所でのティッシュの配架 ・ゴミ箱設置（約200m間隔）の周知による利用促進
ウ 応援，大会の盛り上げ	
(7) 市民ぐるみの盛り上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・市民しんぶん（1/15区版）で各区のランナーを紹介・応援 ・沿道盛り上げ隊（14箇所34団体），市内23商店街による沿道応援 ○沿道盛り上げ隊の団体名及び内容を示す看板を設置 ○ハイタッチゾーン（嵐山小学校付近に加え，北大路橋西詰南側（賀茂川河川敷））の増設（ハイタッチは自粛（応援は実施）） ・車いす競技フィニッシュ会場における東嵐会によるおもてなし

	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSでの情報発信。完走メダルデザイン投票にも活用 ・「健康長寿のまち・京都いきいきポイント手帳」の応募者プレゼントに京都マラソン出走権（1名分）を提供 <p>○応援者向けに「健康長寿のまち・京都 いきいきアプリ」を活用した「沿道応援スタンプラリー」を実施（参加賞の充実） →参加者 144名（前回 162名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィニッシュ会場に地元店による応援者向け飲食ブースを設置 ・ランナーの位置を地図上に表示するアプリ「応援navi」を活用 ・ワールドマスターズゲームズ 2021 関西のPR ●スタートセレモニーでランナーによるマナーアップ宣言を実施
(イ) おこしやす広場	<ul style="list-style-type: none"> ・地元店等による飲食ブース，裏千家によるお茶席など京都ならではのおもてなしを実施 ・「伝統産業ふれあい館」職人による実演を実施 ・「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」のブースを設置し，告知活動を実施 ●京都の文化や技に触れていただける京友禅の染付体験コーナーを設置
(ウ) 応援大使	<ul style="list-style-type: none"> ・5名が出走（フルマラソン：山中伸弥氏，原邦夫氏） （ペア駅伝：早狩実紀氏・桧山進次郎氏，島袋勉氏） ・スタートセレモニー及びフィニッシュ会場での盛り上げ，沿道での応援

(5) 広報・放送実績

ア 大会前	
(ア) 市民しんぶん 区版（1月15日号）	「U-23応援割」対象の区民の紹介，交通規制時間や路線バス・無料シャトルタクシー運行情報等を周知
(イ) 市民しんぶん 全市版（2月1日号）	おこしやす広場への来場，アプリ活用による大会応援を周知
(ウ) 一般紙 （京都新聞朝刊）	7月19日（金）ランナー募集広告 1月16日（木）1箇月前特集 2月9日（日）おこしやす広場等広告 2月14日（金）直前特集 2月15日（土）交通規制のお知らせ広告
(エ) ラジオ （α-STATION）	交通規制告知スポットCM（2月1～15日），20日前から1日前までカウントダウン告知放送 2月15日（土）14:00～19:00 おこしやす広場から公開生放送
イ 大会当日（2月16日（日））	
(ア) テレビ （KBS 京都）	8:30～9:25 スタートの様子（生中継） 12:30～13:25 フィニッシュの様子（生中継） 21:00～21:55 大会ダイジェスト
(イ) ラジオ （α-STATION）	大会開催中3回，コース沿道からのレポート（生中継） 大会当日午前5時に大会の開催可否を放送（KBS 京都ラジオでも午前6時10分頃に放送）
(ウ) 一般紙 （京都新聞）	京都マラソン号外を発行

ウ 大会後	
(7) テレビ (MBS 毎日放送)	2月24日(月・祝)9:55~10:55 大会ダイジェスト

(6) 新型コロナウイルス感染症対策 (●)

各会場で啓発チラシの配布やポスターの掲示を行うとともに、みやこめっせ来場者へのマスク配布や手指消毒液の配備を行い、感染予防に努めた。また、中国居住者に対して自粛を要請し、不参加の場合は次回大会の出走権(参加料不要)を用意する等の対応を行った。

取組	概要・実施結果
ア 周知・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・大会HP, SNSでの情報発信 ・ランナー受付時に体調確認及び多言語での啓発チラシを配布。各会場での予防の呼びかけや多言語での啓発ポスターの掲出。 ・みやこめっせ入口に上記啓発ポスターを掲出し、体調のすぐれない方は、申し出てくださいよう案内。 ・中国居住者に対しては、個々に自粛を要請し、不参加の場合は次回大会の出走権(参加料不要)を用意することを案内。 →386人中358人が欠場
イ 感染予防対策	<ul style="list-style-type: none"> ・みやこめっせ来場者(ランナー, 一般客)へマスクを配布し、出入口やトイレに手指消毒液を配備。 ・ボランティア・スタッフへマスクを配布し、各所に手指消毒液を配備。 ・各会場の手すりやボタン等への巡回消毒。 ・ハイタッチゾーンでのハイタッチの自粛(応援は実施)。
ウ 緊急対応	<ul style="list-style-type: none"> ・大会前々日, 前日は, 受付会場に救護室を設置し, 本市医療衛生センター職員を配置。必要に応じ問診のうえ, 症状が疑われる場合は速やかに専門医療機関につなぐ体制を構築(結果, 要対応者なし)。 ・大会当日は各救護所(運営協力: 京都府医師会等医療関係団体)において, 症状が疑われる場合は, 医療衛生センターと連絡をとり, 速やかに専門医療機関につなぐ体制を構築(結果, 要対応者なし)。

3 事業決算・経済効果等

(1) 事業決算

【収入の部】

- ・マラソン（国内）参加料を 12,000 円から 15,000 円に、ペア駅伝を 20,000 円から 25,000 円に増額したことにより、2019 大会を約 4,000 万円上回る、約 2 億 6,839 万円の収入を確保した。また、企業等への積極的な働き掛けにより、2019 大会を約 1,600 万円上回る約 2 億 7,367 万円の協賛金を獲得したほか、おこしやす広場出展料など諸収入の確保に取り組んだ。
- ・その結果、市一般財源充当額は、2019 大会を約 2,200 万円下回る約 6,643 万円（2019 大会市一般財源充当額 約 8,824 万円）となった。

(単位：千円)

予算区分	予算現額	決算額	差引	備考
負担金収入	109,000	79,425	△29,575	・京都市からの負担金の減
(一般財源充当額)	(98,000)	(66,425)	(△31,575)	
(基金充当額)	(1,000)	(1,000)	(0)	
(toto 助成金見合分)	(10,000)	(12,000)	(2,000)	
協賛金収入	273,000	273,670	670	
参加料収入	268,000	268,386	386	
諸収入	30,000	36,883	6,883	・グッズ広告料収入の確保
合計	680,000	658,364	△21,636	

【支出の部】

- ・看板の再利用や印刷物の精査など、諸経費の削減に努めた結果、支出合計は約 6 億 5,836 万円となった。

(単位：千円)

予算区分	予算現額	決算額	差引	備考
大会運営費	310,000	292,242	△17,758	・人件費・運搬費の節減
安全対策費	223,000	221,344	△1,656	・看板の再利用
広報・イベント 関係費	72,000	71,125	△875	
エントリー ・記録関係費	55,000	53,995	△1,005	・当日出走者減等
実行委員会運営費	20,000	19,658	△342	
合計	680,000	658,364	△21,636	

(2) 経済効果等

・京都市内における経済波及効果は、推計で総額約 42 億 7,600 万円（前回は 8 億 8,300 万円減）となった。

※ 開催事業費（約 6 億 5,800 万円）の約 6.5 倍、
市一般財源充当額（約 6,643 万円）の約 64.4 倍 に相当

・市税増収効果は、推計で約 1 億円となった。

【経済波及効果の推計内訳】

■ 直接効果（約29億7,900万円）

□ 投資的支出 約 6億2,700万円（開催事業費のうち市内への投資額）

□ 消費支出 約23億5,200万円（ランナー・同伴者、沿道応援者、ボランティア等が使った宿泊費・食事代・買物代等）

+

■ 間接効果（約12億9,700万円）

直接効果により生産が増加した産業において需要増加を満たすために発生する新たな生産活動による効果を算定。

（ランナー・同伴者等の京都市内での飲食や土産物の購入による関連産業における生産の増加額、飲食料品や土産物の生産・販売増加等による関連産業の就業者の消費支出増加に伴う新たな生産の増加額等）

↓

総額 約 42 億 7,600 万円

【参考】経済効果等の推移

	経済波及効果	市税増収効果
第1回大会（2012年）	40億8,300万円	1億100万円
第2回大会（2013年）	35億4,600万円	8,700万円
第3回大会（2014年）	41億4,400万円	9,800万円
第4回大会（2015年）	45億9,400万円	9,900万円
第5回大会（2016年）	46億500万円	1億200万円
第6回大会（2017年）	49億100万円	1億900万円
第7回大会（2018年）	49億9,000万円	1億1,800万円
第8回大会（2019年）	51億5,900万円	1億2,000万円
第9回大会（2020年）	42億7,600万円	1億円

【 2021大会について 】

2021大会の開催については、新型コロナウイルス感染症の影響が多方面に及ぶ中、安心・安全の確保をはじめ、様々な観点から、京都陸協・京都府医師会など関係機関とともに、どのような形で実施できるか、幅広く検討を進めているところである。